土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

調　査　名　防地川　通常砂防事業に伴う測量等業務委託　その他河川　防地川

事業名 または 工事名

調査目的及び調査対象　砂防 砂防

ボーリング名	Bor.No.4	**調査位置**	広島県尾道市防地町			**北緯**	34° 25′ 4.3832″
発注機関	広島県東部建設事務所三原支所			**調査期間**	2023年 2月 17日 ～ 2023年 2月 20日	**東経**	133° 12′ 31.8711″
調査業者名		**主任技師**		**現場代理人**		**コア鑑定者**	**ボーリング責任者**
孔口標高	T.P. 33.86m	**角度**	180° 上 90° 下 0° 0°	**方位**	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	**地盤勾配**	水平0° 鉛直 90° 15°
総削孔長	8.00m	**使用機種**	**試錐機**	東邦地下工機　D1-B48	**エンジン**	ヤンマー　NFD-12	**ポンプ** 東邦地下工機　BG-3C

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	現場土質名（模様）	現場土質名	地盤材料の工学的分類	色調	相対密度	相対稠度	地質時代名	記事
				礫混じり砂		黄褐	rd1		第四紀	0.15mまでは表土。 暗色が強く細粒分に富む。 以深、旧耕作土に相当するマサ土。 細礫分に富み、砂分も粗粒である。 礫分は大きくとも10mm以下である。 所々、表土様の細粒土を薄く挟む。 貫入試料は乾燥している。
	32.61	1.25		礫混じり砂		淡灰	rd3			粗粒なマサ土で自然地盤とみられる。 前区間に比べて灰色が強く、やや均質である。礫分は細礫からなる。
	32.11	1.75		玉石混じり砂礫		淡灰褐	rd5			クサリ礫や風化礫を多量に含む。玉石分はL=10～60cmで採取。マトリクスは礫混じりの粗砂とみられるが、ほとんどが玉石分から構成されるため、詳細は明らかでない。貫入試料の含水は低い。N値は礫打ちによる過大値であることは明らかである（クサリ礫の打撃や玉石分での打ち止まり）。
	30.66	3.20		礫混じり砂		灰褐 淡褐灰	rd4			細礫～中礫が多く、砂礫と区分するか迷うような粗粒土である。所々に暗色の非花崗岩質岩を混入し、堆積土と判断される。礫分の最大径は20mm程度。ただし、クサリ礫様の礫を認めることがあり、それらの最大径は40mm程に達す。砂分の粒度分布は良く、微量の細粒分も伴う。試料の含水は低い。4mの貫入試験、礫打ちの可能性はないが、クサリ礫を打撃している可能性は否定しない。
	28.96	4.90		風化花崗岩		淡褐灰			白亜紀	やや均質にマサ状風化した基盤岩。 土棒状コアで採取され、全区間で円形コア形状を維持する。 少しの固結度を残しており、軽く押したくらいで崩れることはない。 ただし、繰り返し揺すったり、強い力で押せば崩れることがある。 ほぐした試料は細礫状となる。 7.35m付近より弱い酸化色を伴う。 7.5m付近より、割れ目の痕跡を認めるようになる。 ただし、コアの固結度に明確な変化は認めない。 DH級岩盤（軟岩I相当）に区分される。
						淡赤褐				
	25.86	8.00								

孔内水位／測定月日：02/20 2.19　02/22 6.00　02/24 6.30

標準貫入試験

深度－N値図（0 10 20 30 40 50）

N値	深度 (m)	100mmごとの打撃回数 0～100	100～200	200～300	打撃ごとの貫入量	50回の貫入量	自沈時の貫入量
11	1.15	1	5	5	11/300		
	1.45						
68	2.00	18	24	8/20	50/220	220	
	2.22						
500	3.00	50/30			50/30	30	
	3.03						
33	4.15	9	10	14	33/300		
	4.45						
100	5.00	17	33/50		50/150	150	
	5.15						
136	6.00	35	15/10		50/110	110	
	6.11						
167	7.00	50/90			50/90	90	
	7.09						
150	8.00	50			50/100	100	
	8.10						

試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	原位置試験	削孔月日
					2/17
					2/20